

私はこの度、第11回韓日未来フォーラムに初めて参加させていただいた。韓国語が全くできない中で、参加を決めたのには2つの理由がある。まず1つ目の理由は韓国が大好きだからである。昨年渡韓した経験より、韓国の文化、風土、そして何より人々に惹かれた。一方で、もはや日本と韓国はこんなにも近くて“近い”国なのにも関わらず、未だに大きな隔たりが存在することに疑問を覚えた。好き！という思いが先行して、歴史問題や政治的問題から目をそらしているように感じ、一度向き合おうと考えた。2つ目は、現在大学でアジア政治を中心に研究を進めているからだ。その際に、やはり韓国のような隣国との政治関係を考えるときに日本の立場にいつも立ってしまうので、韓国の側からの率直な意見を聞き柔軟に学んでいきたいと思っていた。また7月以降、両国の関係が悪化しても参加への意思は変わらず、不安もあったがむしろ直接対話したいという気持ちが高まっていた。このような姿勢で今回のフォーラムに参加させていただいた。

ここからはフォーラム振り返り、私が出たもの、成長したことを記す。私が出たものは、かけがえのない友情である。違う国のアイデンティティを持っていても、楽しいことや時には辛いことを分かち合うことができることを身をもって知った。現在のような情勢の中での討論は加速し、お互いの意見がぶつかり合うこともあったが寝食を共にし、3泊4日過ごす中で絆が生まれたように感じる。また、それぞれの国で互いを攻撃する動きが活発になっていることは非常に残念であるが、このフォーラムを通してなぜここまで両者の溝が大きくなってしまったかがわかった。今、韓国でも日本でも相手国を嫌った過激な行動はそれぞれの国内において活発である。さらに追い討ちをかけているのはSNSへの過激な投稿である。これらの行動の共通点は、当事者同士顔を合わせることなく、相手を傷つけているという点だ。自国内やSNS上での無責任な発言・発信が横行しているから、日韓関係はどんどん悪化しているのだと思う。相手の顔を見て直接言えないようなことは外に出してはいけないはずだ。一方で、今回私たちはフォーラムで自分とは異なる認識、背景を持つ相手に対して、直接自らの思いを表現することを経験した。自分の発言には責任が伴うので慎重に発言しなければならない。相手側の意見を尊重した上で、私自身の思いを正確に伝えることは非常に難しかった。しかし、このようなステップを踏んで初めて通じ合えることがわかった。韓国と日本が未来に向けて少しずつ距離を縮めていくためにはお互いが理性的に、顔を見て話し合える機会が大事であり、もっともっと増やしていけたらなあと思う。

私自身成長できた点は、自分の考えを伝えられるようになったことである。今まで私は、自分に自信がもてず「日本人は一般的に～」 「大学生はこのように考える傾向に～」などと、普遍的なことばかり話していた。つまり、一般論を述べたほうが突っ込まれにくいので、発言の責任をその他大勢になすりつけることで逃げていたのだ。しかし、それでは実のある満足いく議論はできない。今回の討論では、お互い建前ではなく本音で話し合うことを求めていたため、取り繕うことはできず、心のうちをさらけ出すしかなかった。これは殻に閉じこもっていた私を引っ張り出してくれた、大切な経験であったと考えている。また、私は観光産業チームで『報道による観光産業への影響とその改善策』について発表した。韓国での不買運動の影響は日本ではそれほど多くは報道されないため、危機感を持っていなかったが観光産業には少なからず影響を与

えているのだということを知った。これまでの歴史上、両国間に何らかの衝突があっても、直接旅行者数に影響することはなかったため、今回のような例は初めてなのである。この討論を通して、私たちは国際交流の1つの窓口である旅行業界に打撃を与えているこの状況をもっと真剣に捉え、改善方法を見つけなければならないと強く感じた。

このフォーラムを通しての反省点は、やはり語学力不足である。韓国語を全く勉強しないまま飛び込んでしまったので、常に通訳の方に助けていただかなければ意思疎通が不可能であったことは大変心苦しかった。次回もぜひ参加したいと考えているので、それまでに韓国語をもっと勉強しようと思う。多少拙くとも、自ら相手に伝えようとする姿勢が大切である！

3泊4日を振り返ると、みんなで同じ釜の飯を食い、一緒にお風呂に入り、本当に楽しかった。台風で大荒れの宍道湖を見ることも人生でなかなかできない経験だろう。メディアの信憑性が問われる中、テレビ局の密着取材を受け、私たちの思いを正しく発信するよう訴えることができたのも良かったと感じている。

最後に、今回のフォーラムを支えてくださった実行委員長・実行委員の方々に感謝の気持ちを伝えたい。私は初めて参加したのにもかかわらず、とても居心地の良い時間を過ごすことができたし、何よりもたくさんの人々と出会うことができた。韓国の学生の方々とは最終日別れるのが辛いほど濃く深い思い出を作り、日本の学生からは様々な刺激を受け、学ばせていただいた。この出会いは一生忘れることはなく、これからも続いていこうと思う。非常に難しい時勢の中、こんな素晴らしい機会を作ってくださいサポートしてくださったこと大変感謝している。ありがとうございました！



島根到着～ 車窓から。



討論の様子



出雲大社にて



マニト！！



K♡J



最後の晩餐